

10 高知市立A小学校 (高知県)

学校概要

■ 規模

学級数	29学級
児童数	917人
教職員数	50人

■ 周辺状況・特徴

- 周辺は住宅地であり 大学をはじめ私立中高一貫教育校が隣接する文教地区でもある。
- 全校 29 クラスと比較的大規模な小学校であり 減少傾向であった児童数は高知市のドーナツ化現象により近年は微増傾向となっている。
- 開校 34年 で卒業生や周辺住民との連携も厚く ボランティアによる防犯パトロールも充実している。

- 防犯のほかにも、環境教育、福祉教育、食の教育、人権教育に力を入れている。



小学校正門

取組のきっかけ

- 子どもたちが被害を受ける事件が頻発し、子どもたちの安全対策が社会問題となり、学校関係者、保護者、市民の安全への関心が高まった。

検討体制の設置

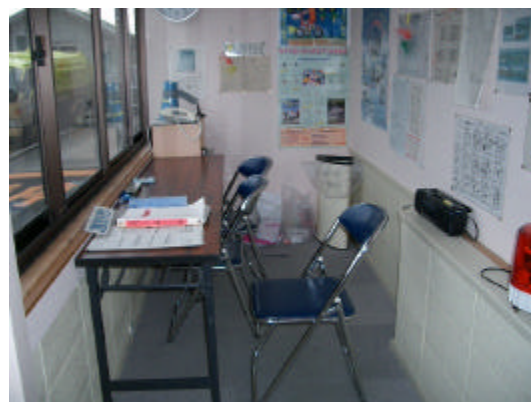
- 高知市の取組として、防犯のマニュアルについて、教職員を中心に、各学校の状況によってスクールガードリーダー、少年補導センター職員、警察官、保護者、地域住民（地区補導委員、青少年育成協議会、開かれた学校づくり推進委員会等）を加えて検討している。
- A小学校では、防犯のマニュアルについて、校長以下教員 10名 で検討している。

現状の把握と課題の抽出

- 学校侵入事件発生を契機に、学校内外の巡回を開始し、警察OBや校長等が敷地全体の点検を実施した。
- その後、校区の住民やPTA関係者等による「学校パトロール隊」の結成、防犯マニュアルの整備、防犯教育の実施等の防犯対策が学校を中心に広がりを見せている。

学校パトロール隊の編成

- 平成 16年 2月に学校の要請により、退職職員で組織する高知市教育シニアネットワークのメンバーや住民による「学校パトロール隊」を結成した。
- 「学校パトロール隊」の主な活動内容は、メンバーが参加できる時間にいつでも学校に来て、校内や周辺の児童の様子に気を配ることである。
- 正門近くに詰所が設置されており、巡回で気がついた事を日誌に記入し、定期的に学校側が確認している。



学校パトロール隊詰所 (室内)

- 現在メンバーは 50名 (平成 18年) 登録されており、新規に加入した場合は必ず全校児童に紹介し顔を覚えてもらうようにしている。



学校パトロール隊メンバーの写真を廊下に掲示

### マニュアル チェックリストの活用

- 平成15年度に、これまであった学校における危機管理（いじめ、不登校、怪我、火災ほか）マニュアルに不審者編を加えた「学校の危機管理（2007年度）」を作成し、教職員と関係機関に配布した。これは、危機管理に対する考え方や緊急時の対応手順等を示したものであり、毎年度更新している。
- 危機管理マニュアルの項目は以下のとおりで、学校で起きるとされる事象を網羅しており、「14不審者」において、来校者への対応、不審者侵入時の対応、事後の対応について記載している。

1いじめ、2不登校、3指導困難学級、4体罰  
 5人権侵害事例、6教職員・学校への苦情  
 7公文書紛失、8けが、9事故（実験中等）  
 10万引き 家出・エスケープ等、11火災  
 12地震、13風水害、14不審者、15その他

学校の危機管理マニュアルの項目

### 改善措置の実施

- 高知市では、すべての小学校に防犯カメラを設置済みであり、本校でも防犯カメラを校長室、職員室等から監視できるようにしている。これらは教育委員会で優先順位をつけて年次計画により措置したものである。
- 教室には緊急時に校長室、職員室に光回転灯により通報できる防犯ブザーを設置し、また校内各所にさすまたを設置している。

### 点検 改善の取組の周知、見直し

#### ポスターによる周知

- 危機管理マニュアルがページ数も多く手軽に見られないことから、「身近に置いて、意識づけができるもの」として、危機管理マニュアルの重要事項（学校施設等の安全点検も含む）をイラスト化した分かりやすいポスターを作成し配布している。
- ポスターは教師用、児童用、保護者用の3種類作成し、利用者に合わせて分かりやすいキーワードで具体的なアドバイスを促している。
- ポスターは他校からも利用についての問い合わせも多く、校長の許可により広く活用してもらっている。



教職員用ポスター 資料参照 (P55)

#### 防犯教育の充実

- 防犯に関する意識の向上を図るために様々な防犯学習会を開催している。
  - 教職員を対象の講演会
  - 児童を対象とした学習会
  - 1~3年生を対象とした防犯教室、危険予知学習

### 周辺地域との連携

- 近隣の大学の学生によるボランティアグループの高知子ども守り隊「守るんジャー」が校区（6か所）の通学路でパトロールを実施している。
- 定期的に警察OBのスクールガードリーダーに防犯対策の内容をチェックしてもらっている。

### 今後の課題

- 警備員の配置は財政的に難しいが、学内案内、モニターの確認ができる有給ボランティアの配置が考えられる。
- 正門のインターホン、遠隔式電気錠が整備されると防犯機能が高まると考えている。

### 研究会コメント

- 本校は、校長の強力なリーダーシップにより子どもたちのために学校パトロール隊、防犯教育などさまざまな安全対策が講じられており、運用面を中心とした防犯対策先進校といえる。
- 地域のモデル校としてこれらの取組は、高知市全体の防犯対策の向上につながると考えられる。